

令和4年度 小平市立小平第二小学校 学校評価計画表

学校教育目標 日本国憲法、教育基本法の精神及び人間尊重の精神を基盤に、そして小平市教育振興基本計画の理念を基本に、国際社会に貢献できる日本人、郷土を愛する市民であるという自覚を育てる。同時に、小学校教育を生涯学習の一環と捉え、学習の基礎・基本の定着を図り、互いが認め合う心と体の健康づくりのための教育を推進する。
考える子 ◎思いやりのある子 やりぬく子

目指す学校像(ビジョン)
【目指す学校像】 「学校・地域・家庭が互いに育て合い、子ども一人一人が輝く楽しい学校」
【目指す児童・生徒像】 1. 自分の考えをもち、判断し、行動できる子 2. 相手の立場や気持ちを考え、共に生きる豊かな心をもつ子 3. 元気でたくましく、最後まで頑張る子
【目指す教員像】 1. 全体の奉仕者として自己の使命を自覚する 2. 専門職、教育のプロとして研究と修養に努める 3. 組織的な対応を意識して職務に励む 4. 健康保持や自己の働き方に留意する

前年度までの学校経営上の成果と課題

- ・成果:コロナ感染予防の教育環境整備に努め、ICT機器を活用し履修すべき学習内容や行事等を工夫して行うことができた。初年度のコミュニティスクール組織体制を構築し、推進することができた。
- ・課題:タブレット端末を活用し各学年の指導内容に効果的に活用できるようにする。さらに情報モラル教育を進め、子どもたちが、より安全に有効に活用できる環境作りに取り組む。若手教員の指導力・授業力の向上。

| | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 具体的方策 | 取組指標 | 成果指標 |
|-------------------------|---|---|--|-----------------------------------|----------------------------|
| 学習指導 | 基礎的・基本的な学力の定着を図る。 | ・補習学習や家庭学習の充実を図る。 ・児童の学力の実態を全教員が共有し指導に生かす。 | ・児童の実態に合った朝学習や補習授業、家庭学習を実施し学力の向上に努める。 ・東京ベーンシック・ドリル診断シートや全国学力学習状況調査等で児童の実態を分析し、授業改善に取り組む。 | 4 全学年・学級で実施100% | 4 教員への内部評価で 肯定的回答が100% |
| | | | | 3 全学年・学級で実施80%～99% | 3 教員への内部評価で 肯定的回答が80%～99% |
| | | | | 2 全学年・学級で実施70%～79% | 2 教員への内部評価で 肯定的回答が70%～79% |
| | | ・校内研究を通して、全教科における言語活動の充実を図る。 | ・全教科で話型、系統表、にこにこことばの宝箱等を活用し言語活動に取り組む。 ・デジタル教科書・ミニホワイトボード・国語辞典等を積極的に活用する。 | 4 全学年・学級で実施100% | 4 教員への内部評価で 肯定的回答が100% |
| | | | | 3 全学年・学級で実施80%～99% | 3 教員への内部評価で 肯定的回答が80%～99% |
| | | | | 2 全学年・学級で実施70%～79% | 2 教員への内部評価で 肯定的回答が70%～79% |
| 安全教育 | ・生活安全・交通安全・情報モラル教育の充実を図る。 | ・「安全教育プログラム」を活用し安全指導を実践する。 ・「SNS東京ノート」、「二小SNSルール」を活用し、児童の実態に合わせた情報モラル教育に取り組む。 | 4 全学年・学級で実施100% | 4 保護者学校教育アンケートで 肯定的回答が80%以上 | |
| | | | 3 全学年・学級で実施80%～99% | 3 保護者学校教育アンケートで 肯定的回答が60%～79% | |
| | | | 2 全学年・学級で実施70%～79% | 2 保護者学校教育アンケートで 肯定的回答が50%～59% | |
| | ・地震等の災害から自分や他の人の生命を守る防災教育の充実を図る。 | ・「防災ノート」を計画的に活用する。 ・教室移動等全ての教育活動を行う空間に防災頭巾を持ち込み児童の防災意識の向上を図る。 ・全教職員が「二小危機対応管理マニュアル」を十分理解し、意識向上を目指す。 | 4 全学年・学級で実施100% | 4 教員への内部評価で 肯定的回答が100% | |
| | | | 3 全学年・学級で実施80%～99% | 3 教員への内部評価で 肯定的回答が80%～99% | |
| | | | 2 全学年・学級で実施70%～79% | 2 教員への内部評価で 肯定的回答が70%～79% | |
| いじめ防止 | 思いやりのある児童の育成を目指す。 | ・道徳教育、多様な交流活動の充実を図り、互いに認め合い共に学び合う児童を育成する。 | ・「考え、議論する道徳授業」を実践する。異年齢集団や若草学級、副籍交流を計画的に実施する。 | 4 全学年・学級で実施100% | 4 児童へのアンケートで 肯定的回答が100% |
| | | | | 3 全学年・学級で実施80%～99% | 3 児童へのアンケートで 肯定的回答が80%～99% |
| | | | | 2 全学年・学級で実施70%～79% | 2 児童へのアンケートで 肯定的回答が70%～79% |
| | ・いじめ見逃しゼロの学校をつくる。 | ・「二小いじめ防止対策プロジェクト」の実効性を図り、「いじめを絶対に許さない」「いじめを未然に防ぐ、早急に把握する」教員の意識を向上させる。 ・いじめ対策会議を月1回及び対応が必要な事案が発生した際は即時開催し対応する。 | 4 全学年・学級で実施100% | 4 児童へのアンケートで 肯定的回答が100% | |
| | | | 3 全学年・学級で実施80%～99% | 3 児童へのアンケートで 肯定的回答が80%～99% | |
| | | | 2 全学年・学級で実施70%～79% | 2 児童へのアンケートで 肯定的回答が70%～79% | |
| 特色ある学校づくり | 地域や関係機関と連携した教育活動の充実を図る。 | ・組織に特別支援部を設置し、通常学級・若草学級・くすのき学級・きこえとことばの教室の連携を図り特別支援教育の推進を強化する。 | ・月2回の校内委員会を開催し、(特別支援教室担当教員出席)医療機関等関係機関との連携や、SC・SSW・巡回指導員との情報共有を図り対応する。 | 4 全学年・学級で実施100% | 4 教員への内部評価で 肯定的回答が100% |
| | | | | 3 全学年・学級で実施80%～99% | 3 教員への内部評価で 肯定的回答が80%～99% |
| | | | | 2 全学年・学級で実施70%～79% | 2 教員への内部評価で 肯定的回答が70%～79% |
| | ・コミュニティ・スクールの取組の充実を図る。 | ・年間計画に沿って、年間12回の学校経営協議会を開催する。 ・各プロジェクトの充実と地域・保護者へ取組を周知し理解を広める。 | 4 年6回以上 | 4 コミュニティ・スクール委員の評価で 肯定的回答が100% | |
| | | | 3 年5回以上 | 3 コミュニティ・スクール委員の評価で 肯定的回答が80%～99% | |
| | | | 2 年4回以上 | 2 コミュニティ・スクール委員の評価で 肯定的回答が70%～79% | |
| 業務改善の働き方 | 意識改革・時間管理・校務改善・体制整備の方向性で取り組む。 | ・校務軽減に努め、勤務時間の管理を徹底する。 | ・学習者用端末やC4th校内掲示板や職員室メールを活用し会議時間短縮、校務軽減を推進する。 ・週当たり在校時間は最大60時間とする。 | 4 教員への内部評価で 肯定的回答が100% | 4 教員の80%以上が達成 |
| | | | | 3 教員への内部評価で 肯定的回答が80%～99% | 3 教員の70%～79%が達成 |
| | | | | 2 教員への内部評価で 肯定的回答が70%～79% | 2 教員の60%～69%が達成 |
| | ・校務改善について、組織の取組により意識改革を図り、個々の具体的な取組をつなげる。 | ・各部会・分掌組織の取組は、目標値を掲げるなど明確化する。 ・自己申告書に示した取組を各自が実践する。 | 4 教員への内部評価で 肯定的回答が100% | 4 教員の80%以上が達成 | |
| | | | 3 教員への内部評価で 肯定的回答が80%～99% | 3 教員の70%～79%が達成 | |
| | | | 2 教員への内部評価で 肯定的回答が70%～79% | 2 教員の60%～69%が達成 | |
| 1 教員への内部評価で 肯定的回答が70%未満 | 1 教員の60%未満が達成 | | | | |